

教界ニュース



スマトラ沖地震で壁の崩れ落ちた学校に集まる子どもたち (写真提供=ワールド・ビジョン・ジャパン)

死者千人超 スマトラ沖地震

各救援団体が現地入り

インドネシア西部スマトラ沖で9月30日、マグニチュード7.6の地震が発生し、千人を超える死者を出したインドネシア・スマトラ沖地震。キリスト教救援団体は現地で支援活動を行い、緊急援助募金を呼びかけた。

ワールド・ビジョン(WV)の緊急スタッフは10月1日、最も震源地に近く被害が大きい西スマトラ州パタンに入り、現地調査を開始した。スタッフによると、被災地は停電が続く、銀行、商店街は麻痺状態という。WVは現在、水、食料、テント、毛布などの支援物資の配布を行っている。また、被災した子どもたちのケア、身体的ニーズを満たすためのチャイルド・フレンド・スペースをスマトラ島に13か所開設する予定。募金窓口として郵便振替00130・6・254059、特定非営利法人ワールド・ビジョン・ジャパン(記入欄に「スマトラ沖地震緊急援助募金」と明記)の浄化装置の設置、NGO「サマリタン・パース」から工具などの供給を受け地域住民と共に倒壊家屋の修復作業、などの活動を続けている。募金窓口は郵便振替00170・9・68590、日本国際飢餓対策機構(記入欄に「アジア緊急援助」と明記)。

日本基督教団社会委員会は、スマトラ沖地震とインド・フィリピンの水害に対し、すでに被災者救援活動を始めたACTインターナショナルの呼びかけに応え、緊急援助募金を開始した。送金先は郵便振替00150・2・593699、日本基督教団社会委員会(インド・スマトラ・フィリピン救援募金」と明記)。

10月11日付オピニオンを読んで

「札幌宣言」を1教会・1信徒の問題にすり替えは矮小化では?

私は71歳になります。70歳で牧師となり、牧師1年生です。10月11日付オピニオン「札幌宣言」を読み、思ったことがあります。

「札幌宣言」では「沖繩宣言」を踏まえて、各分野で危機を乗り越える道筋として、「宣教協力の実現」を打ち出し、それをさらに深めて具体的に取り進む決意を表した。そして、オピニオンはこう結論付けています。「この『宣言』を内実あるものにするか否かは、教会と私たち一人ひとりにかけている」と。

私はこの最後の結びに力さの現実を見る思いなのです。最後に1教会の問題、1信徒の問題にすり替えられてしまうところに、日本の悲劇があると思うのです。

「札幌宣言」に参加した教団・教派がどのように理解し、どのように具体化するかを教団・教派の内実化の問題としてとらえ、きちんとプログラム化しなければ、たぶん大きなお祭り騒ぎで終わって、何も変わらないと思います。いかがでしょうか。

生輝キリスト者として生きていく確かな人生プログラムを、教会は持つべきです。

偶像につながる薬物依存の危険

新潟青陵大学教授 碓井 真史

先月、自宅のある市内で、未端価格3億円の覚せい剤が押収された。2年前には、個人的に一緒にしたこともある教育評論家の先生が大麻で逮捕された。あなたの町でも起きていないかもしれない。

おだやかな住宅街で違法薬物が売買され、一流大学に通う自慢の息子が薬物で逮捕される。バイブル・キャンプのスタッフから、参加少年の薬物問題について聞いたこともある。あなたの隣にも薬で苦しんでいる人が

活再建の希望も失う。覚せい剤を使用すると、薬物が一時的に脳をだまし、活力がわいてきたように感じる。しかし、薬の効果が切れば、激しい疲労感や抑うつが襲

を前にして、一日中レバを押し続けた。薬物には耐性があり、徐々に量が増えていく。徐々に進めば幻覚も見える。さらに覚せい剤の場合には「逆耐性」の問題

暴行行為が突然表れることもある。依存症者は、一生薬物から自由にはなれない。脳に直接作用する薬物には、私たちの心も精神力も勝つことができない。

努力としての依存」とも呼ばれている。また薬物依存に陥る人の中には、子ども時代に虐待を受けたなど、深い心の傷を持っている人も多い。

私たちみんな悩みを解決し、幸福をつかみたいと願っているはず

夫と共に覚せい剤で逮捕された元アイドルは語っている。私たち夫婦は弱い人間なので覚せい剤を止めることができなかった。そうだ、彼らは弱かった。そして、私たちも弱い。薬物は、偶像と同じように、人の心の弱さをついてくる。私たちは、薬物の危険性を知り、具体的な対策を練り、そして弱さを抱えた人間の罪人としての本質的問題と向き合っていない。

ある牧師が私に言いました。日本での伝道は本当に難しい。それは良い人が多いからだ。まことにそう思うのです。この良い人たちに福音を伝えるのは、本当に難しいことだと思えます。他者の目を意識し、権威主義、建前でものを言う日本人をきちんと理解し、わずかに50万人、本当に非力な日本キリスト教会としての現実を見て、そこからスタートだと考え、開拓に悪戦苦闘しています。(佐々木博二 幕張本郷キリスト教会 コミュニティ牧師)

オピニオン

一度目は許してくれた家族や友人も、二度目には去っていく。彼らは仕事も人間関係も失い、生

たまたま、食料難に陥っている状態だ。現在、がれき撤去作業に携わる住民に食料を渡す支援を行うと共に、NGO「ウオーター・ミッション・インターナショナル」の呼びかけに応え、緊急援助募金を開始した。送金先は郵便振替00130・6・254059、特定非営利法人ワールド・ビジョン・ジャパン(記入欄に「スマトラ沖地震緊急援助募金」と明記)の浄化装置の設置、NGO「サマリタン・パース」から工具などの供給を受け地域住民と共に倒壊家屋の修復作業、などの活動を続けている。募金窓口は郵便振替00170・9・68590、日本国際飢餓対策機構(記入欄に「アジア緊急援助」と明記)。

もある。一度、強い依存症になってしまえば脳が敏感になり、何年もたつた後のわずかな薬物や、時にはストレスにさえ反応し、フラッシュバックを起す。精神症状や乱

もあ。一度、強い依存症になってしまえば脳が敏感になり、何年もたつた後のわずかな薬物や、時にはストレスにさえ反応し、フラッシュバックを起す。精神症状や乱

日本基督教団社会委員会は、スマトラ沖地震とインド・フィリピンの水害に対し、すでに被災者救援活動を始めたACTインターナショナルの呼びかけに応え、緊急援助募金を開始した。送金先は郵便振替00150・2・593699、日本基督教団社会委員会(インド・スマトラ・フィリピン救援募金」と明記)。

育てているが、5、6月ソルガムができなければ「なにもない」と言う。世界食糧計画(WFP)によると、干ばつに加え物価上昇や部族間抗争の増加で、南部スーダンに暮らす150万人の食糧事情が脅かされている。

育てているが、5、6月ソルガムができなければ「なにもない」と言う。世界食糧計画(WFP)によると、干ばつに加え物価上昇や部族間抗争の増加で、南部スーダンに暮らす150万人の食糧事情が脅かされている。

育てているが、5、6月ソルガムができなければ「なにもない」と言う。世界食糧計画(WFP)によると、干ばつに加え物価上昇や部族間抗争の増加で、南部スーダンに暮らす150万人の食糧事情が脅かされている。

*「オピニオン」へのご意見はcs-edit@wlpn.or.jpへ